

令和7年度 学校経営計画・学校評価

■4月8日(火)提出

■10月2日(木)提出

■3月13日(金)提出

学校番号	33	佐川	高等学校	課程	定
------	----	----	------	----	---

高知県の教育の基本理念	(1) 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2) 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3) 多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	スクール・ミッション	様々な生活スタイルや学習のニーズを持つ生徒に対応し、主体性や社会性を育成するとともに、生徒一人ひとりの多様な進路実現を図る。
	県中部の定時制高校として、様々なニーズのある生徒を支援し、少人数できめ細やかな学習活動や探究活動、キャリア教育の充実を図ることで社会性を育み、地域社会に貢献できる人材を育成する。		
スクール・ポリシー	【アドミッション・ポリシー】(入学者受け入れ方針) ○「学び直し」の気持ちがあり、毎日の授業を大切にできる生徒を求めています。 ○他者を思いやる気持ちがあり、積極的に協働しようとする生徒を求めています。 ○自分で考え、判断し、行動し、地域のために貢献したいと考えている生徒を求めています。	【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針)	○多様な生徒の「学び直し」を通じて、学ぶことの楽しさを体感させ、授業中に自分の考えを発表したり、「伝える」場面を多くしたりして、主体的に学ぶ学習に取り組みます。 ○生徒の適正・興味・進路希望に応じて、きめ細やかな指導や生徒の進路実現につながる力を身に付けるための学習を行うことを目的に生徒に役割を与え、課題解決のために何が出来るかを、考え実行する力の育成に取り組みます。
	【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ○言語を適切に用いて、気持ちや考えを他者に伝えたり、他者とのコミュニケーションを円滑に図ったりする力を育成します。 ○地域を愛する心を持ち、卒業後も地域と関わることができるキャリアデザイン力を育成します。		

学校関係者評価	
【学力の向上】 評価 【 B 】	・少子高齢化が進み子どもが少ない中ですが、学び直しの場としても期待しております。 ・引き続き学びの確保に努めてください。 ・「学校の授業では、学んだ知識をもとに自ら考え、まとめたり、発表したりする機会がある」における肯定的回答: 2回目 75.0% (-25.0pt)
【社会性の育成】 評価 【 A 】	・働きながら学校へ行くことは並大抵のことではありません。 ・「自分という存在を大切に思える」における肯定的回答: 1・2回目 75% (±0pt) は、コミュニケーションの基礎となる自己肯定感であり、概ね評価できる。 ・「将来の夢や目標を持っている」における肯定的回答: 1・2回目 66.6% (±0pt) は大きく上昇するよう、今後さらなる工夫・改善に期待する。
【チーム学校】 評価 【 B 】	・存続できるように。 ・情報が活発になり範囲も広がり容易に情報交換ができやすくなっているため、管内で知育活動チームなどと交流したり、町づくり職員とも交流するのほひとつの方法と思います。 ・授業改善については、肯定的回答: 生徒92.0% 保護者90.0% 教員100.0%と概ね取り組んでいる。 ・生徒支援生徒理解については、肯定的回答: 生徒85.0% 保護者70.0% 教員71.0%と概ね取り組んでいる。

(評価) A: 目標を十分に達成 B: 目標をほぼ達成 C: やや不十分 D: 不十分

		育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
重点項目	学力の向上	★確かな学力 ○基礎となる知識・技能 ○思考力、判断力、表現力 ○生涯にわたって学び続ける意欲 ★自己の将来とのつながりを見通した学び ○社会の形成に主体的に参画するために必要な資質・能力 ○キャリアデザイン力(やりぬく力)	①授業外学習時間の増加 ・「授業外学習(家庭学習等)をほとんどしない」と回答: 2回目=1回目-5p以上 ②将来のための勉強をしている生徒の増加 ・「将来の可能性を広げるために勉強をがんばっている」における肯定的回答: 2回目=1回目+5p以上	(A) 授業での学習のねらいの提示、振り返りの場面の設定 (B) 生徒に思考・判断・表現させる機会の確保 ・発表機会がある授業の実施 (C) ICTを活用した「分かる授業」の実施 ・タブレットを毎日、持参し、活用し、持ち帰る習慣の確立	B ①授業外学習時間の増加 ・「授業外学習(家庭学習等)をほとんどしない」と回答: 1回目: 66.6% ②将来のための勉強をしている生徒の増加 ・「将来の可能性を広げるために勉強をがんばっている」における肯定的回答: 1回目: 91.6%	(A) 学校の授業による勉強はもちろん、家庭学習にも意味や意義があることを繰り返し指導する。 (B) 自分の考えを発表する場面をより多く設定し、学習内容に対する興味・関心を持たせ、学習意欲を喚起する。 (C) 基本的にはタブレットの持ち帰りを持参は定着している。	B ①2回目: 83.3% (+16.7pt) ②2回目: 75.0% (-16.6pt) ・2項目ともあまり良くない結果となった。 ・「授業外学習」として考査期間中における興味・関心を持たせ、学習意欲を喚起する。 (C) 基本的にはタブレットの持ち帰りと持参は定着している。家庭学習での活用につなげたい。	(A) 学校の授業による勉強はもちろん、家庭学習にも意味や意義があることを繰り返し指導する。 (B) 自分の考えを発表する場面をより多く設定し、学習内容に対する興味・関心を持たせ、学習意欲を喚起する。 (C) 基本的にはタブレットの持ち帰りと持参は定着している。家庭学習での活用につなげたい。
	社会性の育成	★豊かな心、多様性・包摂性の尊重 ○豊かな人間性・道徳性・社会性 ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	①「自分という存在を大切に思える」における肯定的回答: 2回目=1回目+5p以上 ②「高校入学以降、地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある」における肯定的回答: 2回目=1回目+5p以上	(A) 学校行事等における人間関係づくりの機会の確保 (B) 特別活動等において地域や社会とつながる機会の確保 (C) キャリア・パスポートの活用	B ①「自分という存在を大切に思える」における肯定的回答: 1回目: 75.0% ②「高校入学以降、地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある」における肯定的回答: 1回目: 33.3%	(A) 普段の授業や学校行事等の場面で、自分を大切にすることと合わせて、他者も大切にする意識や感覚を育てる。 (B) また、地域や社会の中で自分が何かしら活動することが貢献している様子であることを認識させる。 (C) 年間を通じて多くのポートフォリオ資料が蓄積できている。	A ①2回目: 75.0% (±0pt) ②2回目: 50.0% (+16.7pt) ・プラスの言葉を使うよう指導しているつもりだが、まだまだ浸透していない。 ・学校の外に出て行っている活動や、外部団体等との連携して活動する機会を確保していく。	(A) 普段の授業や学校行事等の場面で、自分を大切にすることと合わせて、他者も大切にする意識や感覚を育てる。 (B) また、地域や社会の中で自分が何かしら活動することが貢献している様子であることを認識させる。 (C) 年間を通じて多くのポートフォリオ資料が蓄積できている。
取組項目	地域協働学習	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	①「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」における肯定的回答: 2回目=1回目+5p以上	(A) 特別活動等において地域や社会について考える機会の確保 (B) 企業見学・ものづくり総合技術展見学の実施	B ①「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」における肯定的回答: 1回目: 50.0%	(A) 特別活動等において地域や社会について考える機会の確保 (B) 企業見学・ものづくり総合技術展見学等を通じて、近い将来就職している自分の姿をイメージさせる。	B ①2回目: 41.6% (-8.4pt) ・授業等において地域を知ることはできているが、自分がどのように参加・参画していくかというイメージ作りまでは届いていない。	(A) 特別活動等において地域や社会について考える機会の確保 (B) 企業見学・ものづくり総合技術展見学等を通じて、近い将来就職している自分の姿をイメージさせる。
	教科横断的教育	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付けられる力の育成	①「学校の授業では、学んだ知識をもとに自ら考え、まとめたり、話し合ったり、発表したりする機会がある」における肯定的回答: 2回目=1回目+5p以上	(A) 生徒に思考・判断・表現させる機会の確保 ・発表機会がある授業の実施 (B) 校内生活発表会への取組の実施	A ①「学校の授業では、学んだ知識をもとに自ら考え、まとめたり、話し合ったり、発表したりする機会がある」における肯定的回答: 1回目: 100.0%	(A) 生徒に思考・判断・表現させる機会の確保 ・発表機会がある授業の実施 (B) 校内生活発表会への取組の実施	B ①2回目 75.0% (-25.0pt) ・少人数クラスのため、授業を行えば必然的に発表等の機会はある。インプットとアウトプットの繰り返しを継続していくことで定着を図りたい。	(A) 生徒に思考・判断・表現させる機会の確保 ・発表機会がある授業の実施 (B) 校内生活発表会への取組の実施(大きな声、表情、内容を伝える)

		取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
チーム学校	学校の振興	★学校の魅力化・特色化 ○少人数での学習によるきめ細かく粘り強い指導 ○一人ひとりの課題やニーズに応じた学び直し ○自分の居場所づくり	①「学校生活は、充実している」における肯定的回答: 2回目=1回目+5p以上 ②「ホームルーム(クラス)では安心して過ごすことができる」における肯定的回答: 2回目=1回目+5p以上 ③学校運営協議会:年間2回以上実施	(A) 全教職員での情報共有 (B) SC・SSWとの連携 (C) 保護者及び「佐川子どもとあゆむ会」との情報共有・連携業務の効率化に向けた環境づくり	A ①「学校生活は、充実している」における肯定的回答: 1回目: 91.6% ②「ホームルーム(クラス)では安心して過ごすことができる」における肯定的回答: 1回目: 91.6% ③学校運営協議会: R7年7月9日実施	(A) 全教職員での情報共有 (B) SC・SSWとの連携 (C) 保護者及び「佐川子どもとあゆむ会」との情報共有・連携業務の効率化に向けた環境づくり	B ①2回目: 83.3% (-8.3pt) ②2回目: 100.0% (+8.4pt) ③学校運営協議会: ①R7年7月9日実施 ②R7年12月16日実施 ③R8年2月17日実施	(A) 全教職員での情報共有 (B) SC・SSWとの連携 (C) 保護者及び「佐川子どもとあゆむ会」との情報共有・連携業務の効率化に向けた環境づくり
	不祥事防止	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	①校内研修の実施回数: 3回以上 ②不祥事防止委員会の実施回数: 3回以上 ③不注意事案発生件数: 0件 ④ハラスメントについての理解度: 100%	(A) 全定合同校内研修会の実施 (B) メンタルヘルス・ハラスメントアンケート実施 (C) 風通しのよい職場環境 今後、不祥事事案発生の防止に努めるため、日頃から風通し良く雑談を大切にする また誤送付等を防ぐためダブルチェックを行う。	B (現状) 校内における不祥事・不注意事案・ハラスメント等については特になし。 ①校内研修: 1回実施済み ②不祥事防止委員会: 3回実施済み	(A) 全定合同校内研修会の実施 (B) メンタルヘルス・ハラスメントアンケート実施 (C) 風通しのよい職場環境 常に情報を共有しながら業務を進めている。	A (現状) 校内における不祥事・不注意事案・ハラスメント等については特になし。 ①校内研修: 7回実施済み ②不祥事防止委員会: 6回実施済み	(A) 全定合同校内研修会の実施 (B) メンタルヘルス・ハラスメントアンケート実施 (C) 風通しのよい職場環境 常に情報を共有しながら業務を進めている。
	働き方改革	★長時間勤務の解消 ○業務の分担 ○年休等の取得推進	①時間外勤務月45時間以上: 0名 ②学評A「年休等が取得しやすい環境である」への肯定的回答: 100% ③学評A「現在の職場環境に満足している」への肯定的回答: 100%	(A) 業務の効率化に向けた環境づくり (B) 年休等の取得の推進 (C) 風通しのよい職場環境	B ①時間外勤務月45時間以上: 0名 ②「年休等が取得しやすい環境である」への肯定的回答: アンケート未実施 ③「現在の職場環境に満足している」への肯定的回答: アンケート未実施	(A) 業務の効率化に向けた環境づくり (B) 年休等の取得の推進 (C) 風通しのよい職場環境	B ①時間外勤務月45時間以上: 0名 ②「年休等が取得しやすい環境である」への肯定的回答: 100% ③「現在の職場環境に満足している」への肯定的回答: 85%	(A) 業務の効率化に向けた環境づくり (B) 年休等の取得の推進 (C) 風通しのよい職場環境